



羽黒  
月山  
湯殿

三山雅集

上

縁起事跡  
詩歌連能

ル 4  
4905  
1



三山雅集序

夫佛種從緣起... 吾宗又沙汰す... 事山... 夫佛種從緣起とい吾宗又沙汰す... 事山... 夫佛種從緣起とい吾宗又沙汰す... 事山...

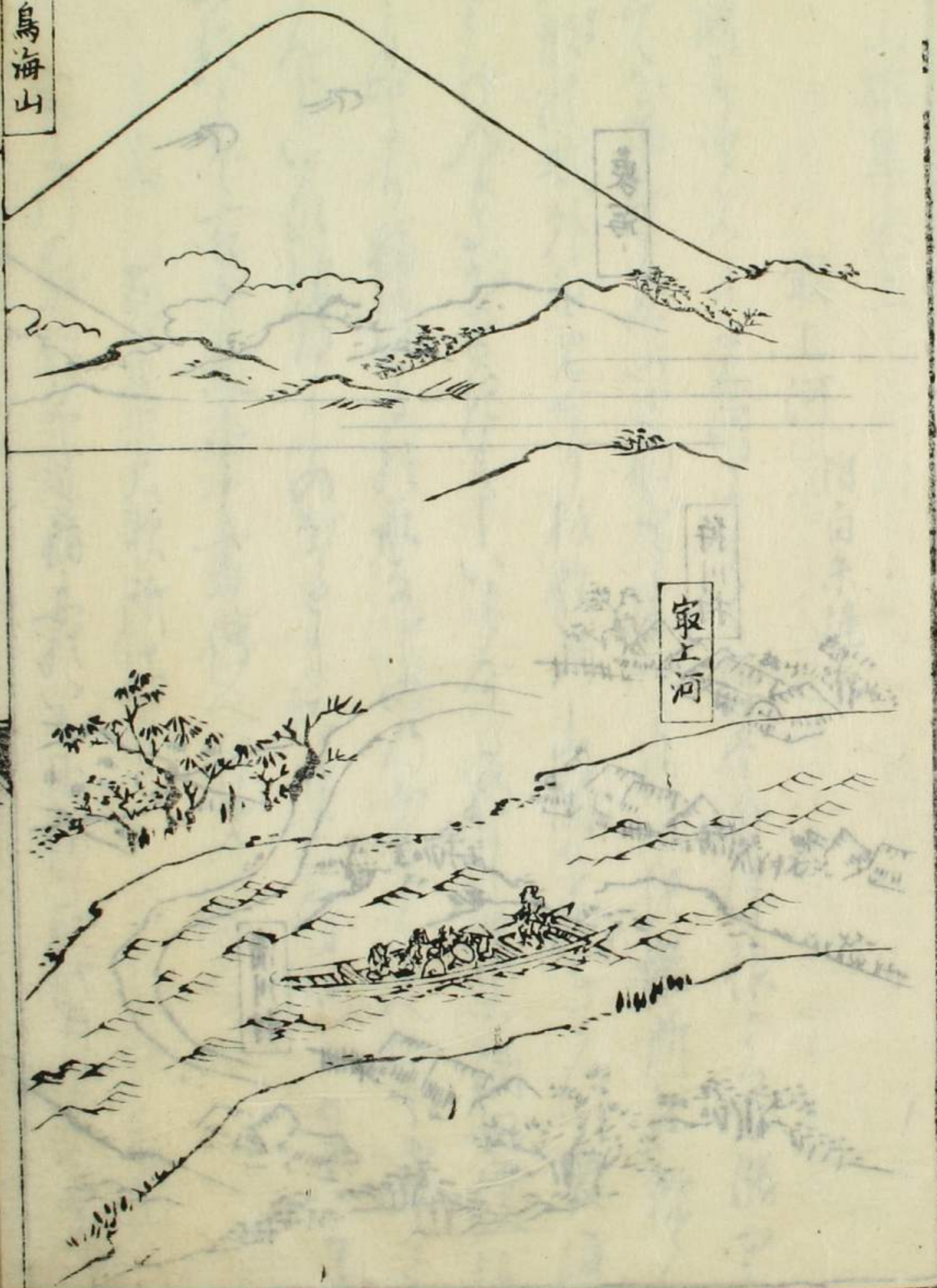


於茲三山事實推現... 萬歲已往の舊跡... 宮祠寺院... 規模書... 傳... 記... 若干... 土地... 畿小... 邊境... 息... 山... 下... 州... 幕... 廣前奉納の句... 武陵乃雅士... 集... 梵河の貴... 流... 臺... 山... 路... 乃... 終... 集...

畫書... 今乃詩歌耳目... 乃微... 貴... 信... 山獄の瑞氣

權現... 靈光視聽... 歷代乃彩... 蓋君子... 入事... 善亦入... 子... 運乃合

鳥海山



取上河

一やりの僮僕まよとく残星乃鼎る一荒澤の下流  
 とほの後夜しがたり酒田乃扉茶成辨して一破二破  
 一なるべし惟二人兩夜り清風のそよめる事の一多々ぬ

荒澤 野村東水書

一やりの僮僕まよとく残星乃鼎る一荒澤の下流  
 とほの後夜しがたり酒田乃扉茶成辨して一破二破  
 一なるべし惟二人兩夜り清風のそよめる事の一多々ぬ

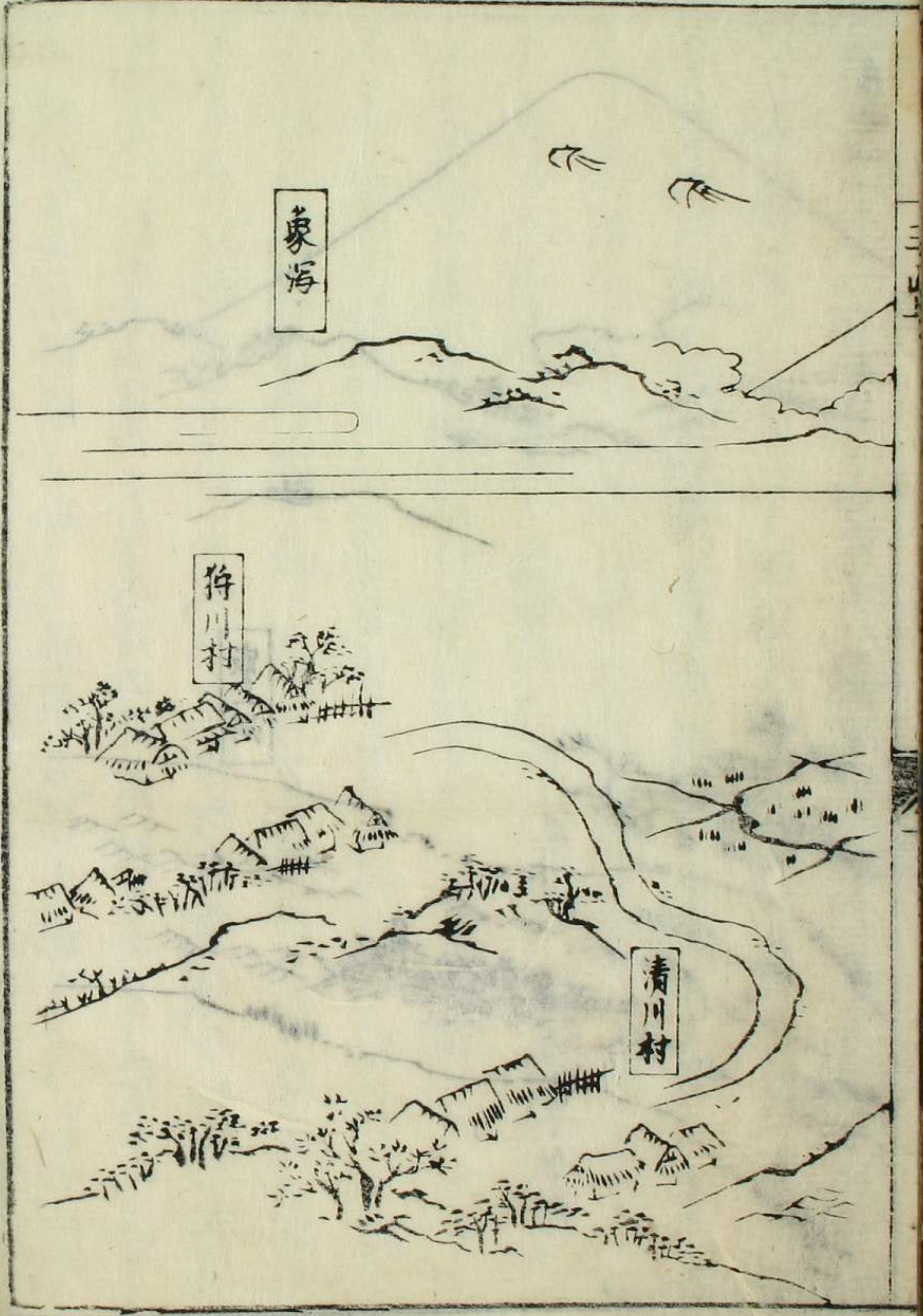
三山雅集卷上

寂上河

附白糸滝

此國より字をよみよの河よりく源を合津根よりと流る  
 出でてこゝをなすたがたのたがたにけりは難所は終く  
 山形は城外より光り板敷乃山関を抱き入り泉流  
 とくけり入るる事いふもたがたの泉の酒田の海  
 へ流るる編はたがたの船をのりぬるもたがたの  
 かんじりけりおのりのりたがたの月をのりぬる  
 おのりのりたがたの書信へけりぬる

寂上河のたがたの編はたがたの月をのりぬる  
 寂上河のたがたの編はたがたの月をのりぬる



後撰戀四

三條右大臣

さかき川津の舟小しりひ編舟れ心くくし胸の浪を

千載雜下長歌

後頼朝臣

霞の川津の舟の岩をいし涌るるし下略

續後撰秋夜十戒中

寂念法師

とが河人をさるるを編舟れえりて沈むるを

續百八人

前内大臣

い舟舟の管のさるるを編舟れえりて沈むるを

夫木集

雅經

さるる川津の舟のさるるを編舟れえりて沈むるを

新後撰雜中

藤原嗣房

い舟舟の管のさるるを編舟れえりて沈むるを

續千載夏

前関白太政大臣

い舟舟の管のさるるを編舟れえりて沈むるを

續後拾遺雜中

後安

い舟舟の管のさるるを編舟れえりて沈むるを

新千載恋二

鴨祐友

い舟舟の管のさるるを編舟れえりて沈むるを

同上

友原洞如

い舟舟の管のさるるを編舟れえりて沈むるを

新千載恋二

有家

い舟舟の管のさるるを編舟れえりて沈むるを

新後拾遺

後鳥羽院下野

家と川いそしあふ船舟とまはりけり心成とも入心

同上

道因法師

とかの河よりしやぬ船舟れあふ瀬さぶと程や久しと

貞享のはやし羽黒山別当の藏を学りて入院の

わくしげい河をよらして 僧正胤海

い船舩れのわりのひもとたふ川を安とせれあふいと  
船舟い漲る水も流るはりのわらふとくもとあふ川うら

麦刈と船舟のひん留よとく川 貞徳

奥羽行脚のあら

さみぶれをわりのくまうんか川 芭蕉

川にさし流るる神とてあふる 其角

禪とが小世れ中より終究くも川 惟然

わくしげい河をよらして 僧正胤海

早瀬あつく底よりさうり後かたの波 風水

あよまぬ川れめりてかふれ 琴 七人

船とが小世れ中より終究くも川 惟然

代旅計や幣小紙のりて川 桂奇

水れ粉小簪乃積ひやうたよ河 茂伴

涼一さの海りにかりてかふれ 且松

船舟と馬務めりて河 此紅

蛭貝れ名を結中りて水屑 東水

初経や 移成屋 船 今 呂茹

家と川をくぐれ 右の断岸 千尺 小緑樹のひび

と下まといひ 遊たすの滝 四十 八瀬 中 竹 竹

源義経 越後 越後 越後 越後 越後 越後

くく 阿ふれ 灘を 鳴く 供り 具

白ふれ 遊や あり あり ところ あり 桃隣

白ふれ 遊や あり あり ところ あり 桃隣

白ふれ 遊や あり あり ところ あり 桃隣

白ふれ 遊や あり あり ところ あり 桃隣

白ふれ 遊や あり あり ところ あり 桃隣

清河 附五所王子

庄内領地 此 齋谷 あり あり あり あり あり あり あり

改り 也 齋谷 あり あり あり あり あり あり あり

改り 也 齋谷 あり あり あり あり あり あり あり

改り 也 齋谷 あり あり あり あり あり あり あり

山形 桃陽

東水

村のより 小ふら 官地 あり 是す あり あり あり あり

それうし 義経 下向 のり あり あり あり あり あり あり

奉納 あり 今 小ふら 門 あり あり あり あり あり あり

呂茹



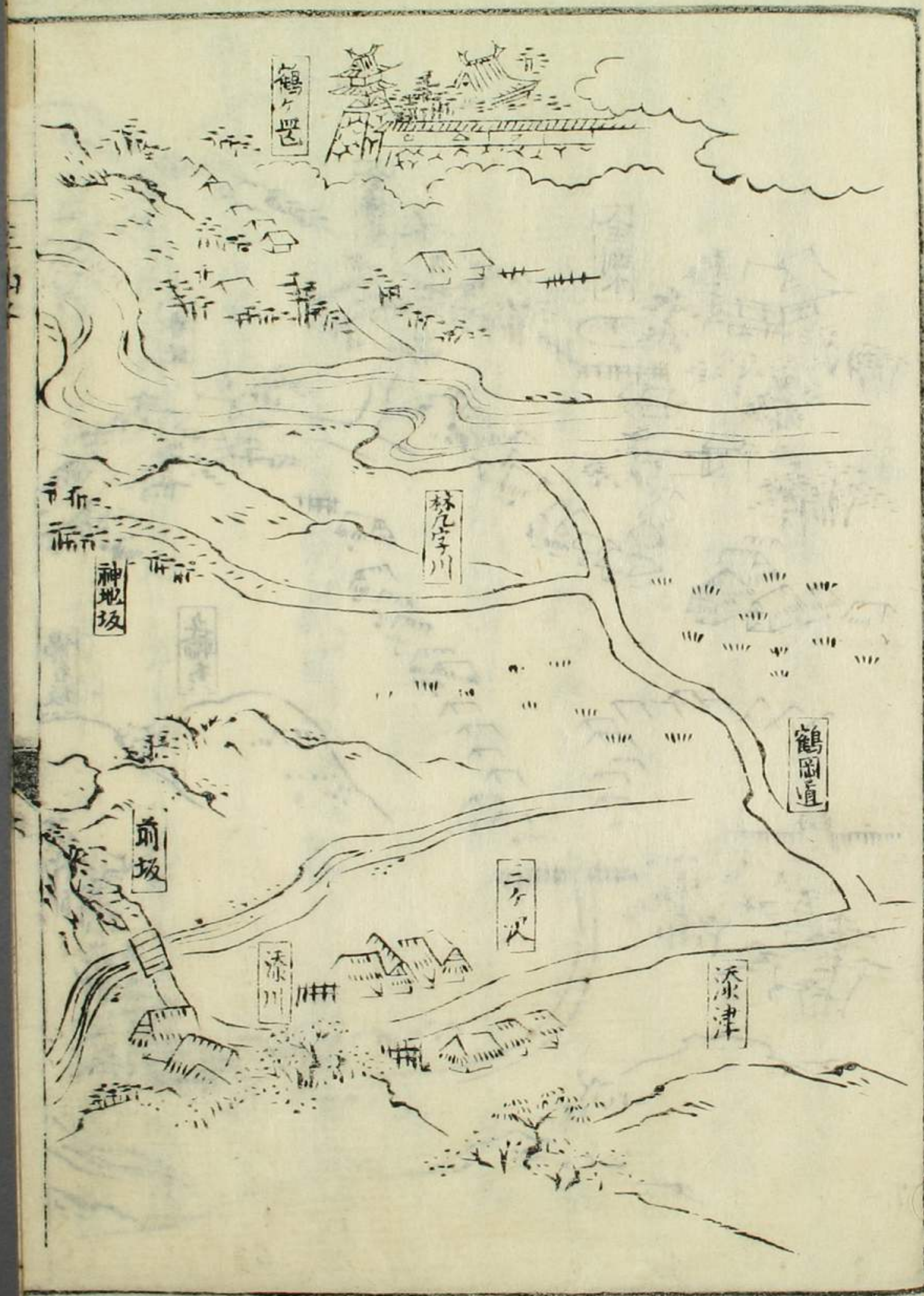
是より得川のまはりより河家清河のりの驛路ありて  
 正一川馬川とあるより一ヶ所深津なるに村ありて  
 深津村ありてあるは深津といふ一ヶ所加我寺といふ一ヶ所  
 是八十余箇中なりけるやと人上旬館といふ館の  
 記あり上旬館に事来りて記す

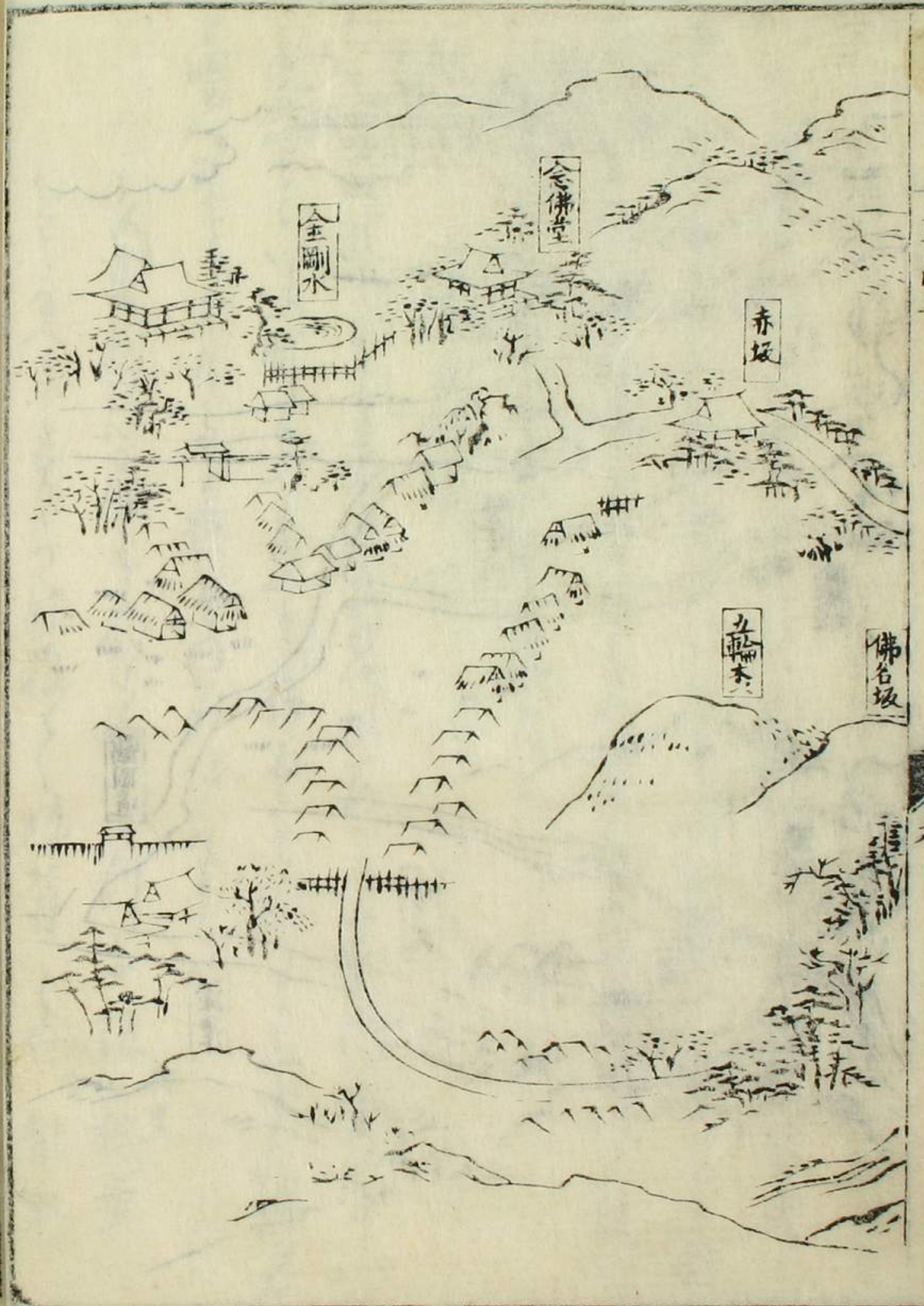
佛名坂

乃より右れりてとてえゆるまへにわたり薬師堂あり今  
 は向といふ所とてまゝに移るとそのうにとせは佛名  
 と唱へたりとてそのまゝとてのまゝとて

衣高れ月扇の形もや少のま坂 羽黒 独歩

とてまへにとてつけ接ぐ味背とて 今 梨水





五輪森

妙門が故れば此の山に佛名依止の塔婆ありて成建とて  
 今も亦もあまのこに此の秘宗山澤依止の所なりとて  
 從廻りてなるに在る跡一と云ふも  
 風物も亦も一と云ふも  
 河内りぬるに  
 前坂  
 此れ坂とらりて向れ町へ入ん松づら村より往く  
 出する人家あり

ありめれは  
 何れを  
 有明  
 寺  
 配  
 凍雲  
 宗因

流すれ倉く燭の敷やりの物 仙化  
上件所、從家上趣干羽黒山路筋也

鶴岡

乞下り、又城後海原路く羽黒へ趣くの道也物やいふ  
酒井左衛門尉城下也古に領主ふく城申郭外武  
家や、さき小工高れあく懐惠まきく志がく  
結歌れ嘔吐まきる市人の言語物くあてて盛耳  
心城下乃内七月町といつる不旅人の驛舎なりふの  
西あく入判をあくまきんふのそと道とまきの羽黒へ  
おとむく原

梵字河

城下とよむ物まきく川あり往昔湯殿月山此苔の漏  
りり弥陀大日觀音乃梵字この川に流下りて  
今くその名流布して移せりけ  
川と鳥居川等といふもじり羽黒一乃華表  
とらり

流すれ雲と信く 梵字川 助叟  
まけく 柳や捨物おむ字うま 一蜂  
燕れ彩もまけり保長字河 倫  
澤乃云り魚尾と番流も梵字川 倫  
青研や乞はくゆたがあうよる 窓柳  
蛭ま阿咩あめれん 川 九

二四

活る魚は遊魚や、五枚保む一河會津苔水

いふ事りく周知物く人といふ一ハ  
うらうら川内事りく

能きばそれ不生小まきく物縄川 東水

水れわさる事れ物し林九字うさ 李山

きめくハ三角物し 巳 可一菊 呂茹

夕川

川をわさるく向く夕川しりふあり音夕川れ城主

とく何が乃事りくふとりく事り羽多信仰一を

能除太子り帰依せりく西南乃方り再得山金峰

山又申る赤川村松尾村祠貴布祿りり羽多り由緒る

不なり小れ方る酒田神浦乃眺る乃あひる海山

と見えり

野ミヤか馬の海ねど ぬれ茶 浮生

喰めあり名松尾れ 柏園家 惟然

流痛りれ久りくまきり菊乃事れ水 呂茹

酒田 并 神浦

酒田みき飛ヶ崎しと云ふ代物りしれ城主の領内小

くして下小し一城あり西園方運送れりくは成る

浅小しと萬戸厚く且暮乃燈正なりとくは別け

海濱り袖乃浦あり

拾遺五

思ふ少る浅乃り袖の浦りは成るは成るは成る

金葉雜上

平康貞女

つらねたる髪乃ちまきまきわらふ所々に袖の浦とまきまき

新古今雜上

中務

袖の浦とまきまきとまきまきと袖の浦とまきまきとまきまきと

新勅撰恋四

前園白

うやまのあつたまの袖の浦ひらり右の浦とまきまきと

同上

侍従

ゆいぬ髪乃ちまきまきを袖の浦とまきまきとまきまきと

後後撰恋二

若原通憲

若らつる流ら海とまきまきとまきまきとまきまきと

續古今恋一

冬儀雅經

りまのりや大い心よおとる海をけりまきまきと袖の浦と

後後撰恋五

常盤丹入道

まげのりや袖乃ちまきまきとまきまきとまきまきと

新後撰恋一

親部成茂

袖の浦とまきまきとまきまきとまきまきとまきまきと

同意四

高階宗成

はれがさやありに袖の浦とまきまきとまきまきと

後後撰恋

親部成茂

あつたまのあつたまのあつたまのあつたまのあつたまの

同意一

二条入道内大臣

はれがさやありに袖の浦とまきまきとまきまきと

同意二

前衣儀社有

あし衣ねれし袖のうへてし八條のうへにふく

同上

為道の后

あし衣ねれし袖のうへてし八條のうへにふく

同上

後二位親子

あし衣ねれし袖のうへてし八條のうへにふく

同意四

龜山院御製

あし衣ねれし袖のうへてし八條のうへにふく

新千載秋

友原宗泰

あし衣ねれし袖のうへてし八條のうへにふく

同意二

権大納言公忠

あし衣ねれし袖のうへてし八條のうへにふく

新千載秋

法原源意

あし衣ねれし袖のうへてし八條のうへにふく

同意二

為兼

あし衣ねれし袖のうへてし八條のうへにふく

新後拾遺春上

御制衣

あし衣ねれし袖のうへてし八條のうへにふく

同意二

あし衣ねれし袖のうへてし八條のうへにふく

あし衣ねれし袖のうへてし八條のうへにふく

同上

正三位知家

あし衣ねれし袖のうへてし八條のうへにふく

新撰古今一 洞院攝政大臣

あびのほろしあはぬは乃首は從明の袖乃く風

同五二 源家長

あふぶにんかめしなすめはむとをれ袖の浦浪

同四 後醍醐天皇

あゆりあふあはれはなをえり別中乃袖乃く浪

同五 平忠房

あふあはれはなをえり別中乃袖乃く浪

同六 道子内親王

あふあはれはなをえり別中乃袖乃く浪

同七 一条前太政大臣

あふあはれはなをえり別中乃袖乃く浪

同八 権大納言経世

あふあはれはなをえり別中乃袖乃く浪

同九 名所百首の中より

法皇幸臨

あふあはれはなをえり別中乃袖乃く浪

同十 源家長

あふあはれはなをえり別中乃袖乃く浪

同十一 源家長

あふあはれはなをえり別中乃袖乃く浪

同十二 源家長

あふあはれはなをえり別中乃袖乃く浪

同十三 源家長

あふあはれはなをえり別中乃袖乃く浪

同十四 源家長

あふあはれはなをえり別中乃袖乃く浪

遠抄

あはれ山や海浦之行く夕日すまを大 芭蕉

累々と日成海へ入きりもの川 今

海上より堂を然くはやくはら 泊洲

唯これ月を帯なりたるは 惟然

紹巴より袖してなれは 尾花沃 清風

はらへれを裏より吹く袖乃を産 清風

鳥海山

あつ山鎮座の神一記より大物主神社といふなりその外  
山内乃事實者高記未軍新賢と云くはさの康平  
年中粟屋川に御宇信貞任同宗任及同の村を海津

と仰いよふことありてはたしかに御宇に御宇の御宇

乃のより富士の山はたかしく丸まはたしと積雪班駁

りたりとあはれ山の中ありては二のよりいあはれ

歳也もんの歳之

町よりぬ山や葛の根をわたり解 浮生

雪れ鶴の雛し花なりとるの海 風水

鳥乃海なりとらぶる鳥 不玉

鳥乃海なりとらぶる鳥のふれあり 際 重行

瑞鳥也 皇の住といふ山ありふ 東水

雷れ心相合やとらなり 武仙

琉璃光乃ふらまなり 鳥れ山 呂茹



象写

多海山茂少よりねん象写なり能因法師が出石の乃  
西行上人乃老来れ禱ぬ十九の嶋八十八と深れ是  
ゆゑと謂く一宮をいさむく作の此景成るそんく此園  
乃名やうらなれい席をゆく路をうく記との神功  
皇后の清隆とあり寺に干満珠寺といふなりそれ  
縁因ゆゑ

後拾遺旅

純因法師

新古今旅

顯仲朝臣

世の中らわくすし行りりそら深の堂れ台座と我宿  
ゆてゆて我身おしあれい蟬海や堂れ南やよけき旅の

西行法師

たけ浮れ橋の浪より舟のたのころと堂れけり紅

ゆつゝの行脚と遊行上人

ゆつゝの思ひをささるゝ象写れ何の音も小粒風が

江上れ縦横一里ありふりて候に松嶋よかりひて又巽  
なり松嶋の若ふかぶとく蟬海を恨むらとく寂さ小  
悲しこ成るそんく地勢環る物やまもふ似より浪  
乃おろるゝ象写ゆゑとそん

そら深乃月や流人よそとけがの 萩 澤菴

記さうすれ雨や西施か合歡のそれ 芭蕉

ゆゑや露の脛ぬ後と海すゝい 今

旅度せし月見路 小松ふり 一品  
西行橋 五法此園小笠珍より 三千風  
鶴れ孫をく見所ゆき乃海 山夕  
浪越わびりありくや 雌鳩ニサゴの巢 曾良  
麻梁シ、ロとく園庭と形やれあちどり 凍雲  
水やせし聲乃生浦亦ひあけ 呂九  
蚪浮や鴨れ縮わくうとふか 則堂七人  
こ所くくや箱はくま乃尻をひと 舟川 吳柳  
蚪浮や首り出と屋がれ 蚊屋 清風  
静けさよ所くく成 雲々 汐乃あり 東水  
こ所浮やあふし川をるをさくぬ 呂茹

八乙女浦 附熱海

是ゆ蚪浮乃積さやそのうと羽黒権現此下より瑞光  
と輝く山頂より物りまき給ふより 則海中ふ石を  
鳥居あり今ふ玉のくまわ月より文月くけく星河  
こいやの帆を束らこの沖より龍灯あきそれおとす天  
く鼻のう文海よりう落くその光海をのけ不思議  
堂ニ凡察より乃ぞんやまわより修験入峯乃時言ら  
羽黒山より遠禱の靈地あり

八雲の川 娘れあふくまふ家ふる柳 清風  
笠まふより汐路や眼くハヤ嬰れ月 東水  
是より南の磯まきよわれし熱海とく一邑あり水海小

近しとて土母く草洞少くは海にふり温泉  
漏れく諸病と治と苟く奥羽兩國に老るる遊賞  
乃佳境なり

蕨の郡くは海に成るは先づの  
伏見 任口

海系より林檎成はるは改やりと  
江戸 鶴里

右酒田鳥海八し女浦等記途中遠望也

荒河

是の往還乃路筋なり川を渡りて小なるは森あり金  
澤宮といふ昔奥州秀衡病死のち家嫡泰衡從  
頼朝命<sup>二</sup>殺<sup>一</sup>義經於衣河館頼朝又攻泰衡正不臣之  
罪時郎從照弁金沢なりといふ家武士のよるなり

いしゆきといひ生と畫し一社あり海にわたり古に  
人下傳へたり

よし女や男より役しとらうか  
東潮

信よりつとよりうら累やふれふは  
羽黒 久武

是より茶川なりといふ村成るは荒町といふ村へ出の右の  
方より玉川村といふあり玉川寺なりといふ古へは羽黒  
領地にして玉泉寺なりといふ天台山に流しと流る  
り号よりいふと今い頼朝家の経堂なりといふ  
宝物なりといふ今小浜なり

神路坂

これより玉川通りよりとて向の町に入りとれりといふ  
吾

此山之現坐向... 仰々としていふより... せむしあを  
ひくまつけけり... 中へ傳へり

山依り... 鼻う面... 尾... 東潮

入門や... 右左... 天立

一歩進高神地... 瞻望絶頂... 南枝

松風長入路... 袂... 酒掃... 情思不他

松涼... 中へ伝へり... 今

山乃序... 白藤

中へ伝

坂乃... 立石あり... 辨慶の礫石... 中へ伝

乃... 記事... 今

赤坂

赤坂

赤坂... 庄内 定頼

衣... 今 李山

念佛堂

念佛堂

赤坂山蓮臺寺... 武陵人... 信心

修行... 念佛の一字を... 信心

信心... 乃墳墓... 中へ伝

あり... 後醍醐帝の... 幸なり

あり... 幸なり

尚か

奈河の注すふとのし 石尾ふら 山形 幽窓

滑河 ナマリ

念佛堂より下れし町並也 けき屋八日町と云此所  
中より流るるよるなり 門と云金剛あり未なり

雄寺や合掌と云大まむけ山 羽黒 薫堂

戯あも 妻山と云や たりそん宿 莞兮

洞蓋れ房りみやげや 尾壳沢 直水

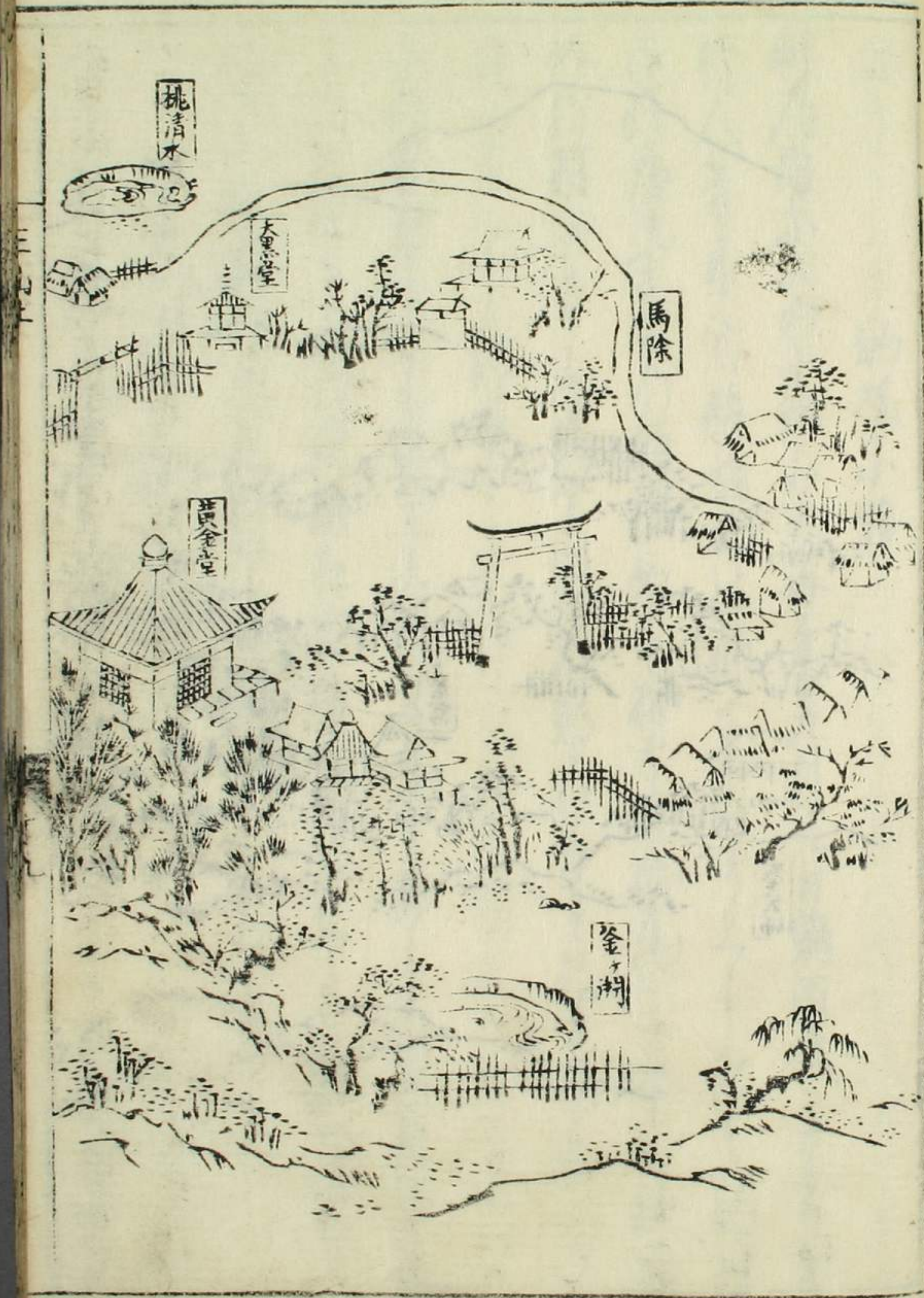
金剛水

金剛樹院乃地内なりけ寺し今三十余坊内ふして  
極深ありむうい來迎山千勝寺と云六百坊に願

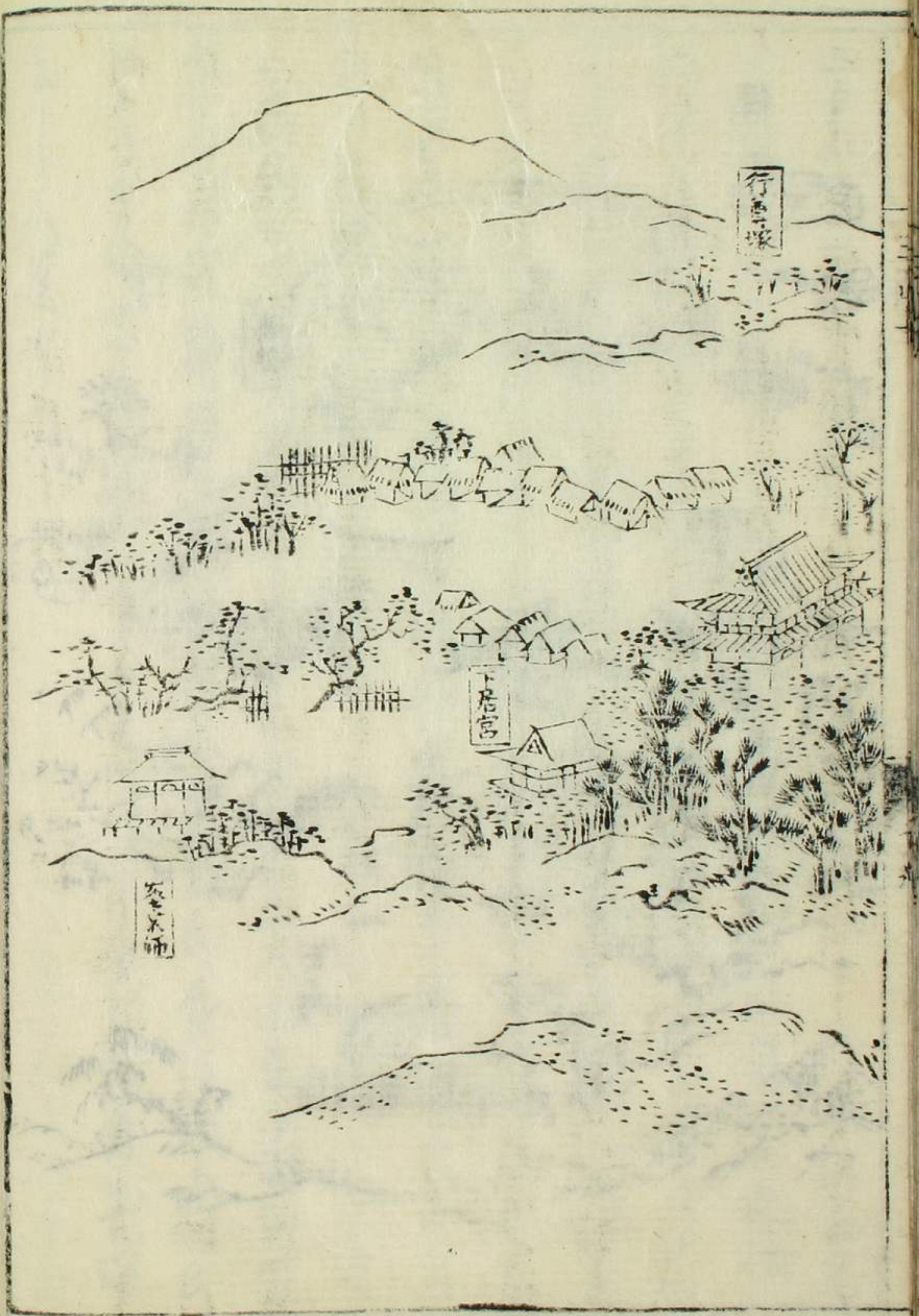
ふして異驗れ僧侶住持より今に東迎が池と云此  
色をりされ此清水と貴にむう乃修学の初金剛  
堅固乃が石はこたかくわつてふに冷水を湛よりん  
突熱の物より人れ願るをふふは水成用おれ験を  
得る事今小時くなり

中旬館

正しう羽黒八千余坊よりとらくよりなる町年中の約事  
繁多ふして寺務三人と云く一箇月乃らら旬中  
旬下旬成れ約ひたれを是成之旬と云長使と云ら  
此而も中旬なる人住れ多中旬館といふ事記と  
深川村と旬ら館例之可知



富山往古ら象徒中山成隔く居住一修験社家爲  
 七千軒余やい爲り故より後堂峰然不設録倉執推一  
 六のり新へ悪事停止ありく國民ゆこうなりたど  
 とれ比取明寺時頼回園れ初この山本堂は承仁をばとめ  
 二十二年送り給ふり古記あり後倉居御府のち  
 當必乃探題梅津中将殿と被下五中爲殿男子三人  
 あり富山長史職と被補一ヶ月小十日替り仁を  
 と被依り上中下旬とりの上旬家老大田氏中旬家  
 老三澤氏神林氏下旬家老真田氏右任氏小園氏  
 あり下旬家老近代あり此は常善壇  
 といふ人なり



的場小路

町乃内小ふの小海あり毎年九月九日鶴岡城玉よりま  
 行人等馬と流橋馬に神事ありふり記と的村  
 あり居よき先乃的成物と村なり松尾と牛と神領  
 の内村くより流奈科成物ひ物と故実なり

池中

ふれ下じうと醫王山機乗寺と号して五百坊は鎮  
 一と居り今修験在家等形成なり石の塔あり  
 富山前任持天宿中彫刻の甚くあり

雷電石

つら雷電吼善薩は岩ありと居りなりなり

この石今ふ所なりて人家に背たりあり不浄なる  
所なりと人々を病はばはるなりとのも雷電は  
水とありむらうの淵に水なりたるう今よあり

石坂

ふれ石ありて往來人馬よりたゞの道  
右の首よりなる是より下居山中禪寺といふ昔言  
留乃境地なりたりて是より山とる古まらるる難  
あり代知とるなりといふなる故を寺持あり

引彌堂

引張れ弥陀如来慈覺大師乃此作なり是より堂社  
ねくふしてていよ多々奉りて一統久回れ大月を云

奇持ありて是よりあれは是なり

黄金堂

應化堂よりいふ三十三之魁乃觀音の貴く多ひあり  
いまは則羽皇親親三十三之此應化身と崇りいふ  
やのれん草剣いはれ乃はるや中來武持頼朝卿  
羽皇修造よりいふ上肥次郎時れ奉行とあり  
これ其影像なりといふ堂ありあり像の裏に漆を  
上肥次郎實平あり福岡村といふあり実平塚と  
今よりありて生と終りてや

文祿年中丹精備後守景次は此堂に再興とて  
ひり堂のありて惣輪塔なりて堂に後より天神



三十一  
松とて周園三つえ程ありて二倍ありけり後系ふ  
ありしより五十年ありしにその木枯るる  
をばとて人根所まなくおりたり

花さすれ露成階家 磬此音 天立  
流香しといふは法の金後系 李山  
あけ時多く花よもあれ金 衣鳥 呂茹

観音堂

二面観音なりふ此地主々下總國香取郡福田村  
伊能氏何事しといふ者小しし年比之れ法山信  
りふ小ししは関東疫癘の妖孽<sup>ヨウコウ</sup>なるふ小此者乃  
家ありて一日二月に肉し牛二疋ありたり主は悲

思ひたれしとて愈たかむるを思ひたるも感  
この死する年ありしに暮らするにそののわらう  
形しうく疫氣しり取れぬる年ありしに暮らする  
ありしに後一家乃肉を食むるも疫神の難は  
おしにすしそれゆへにまれくわらぬるやうく  
之乃山に靈威を貴く給つてんくそとあわらるる  
畏の感と修りまらるる唱仰乃心儀くはけ観音  
とま納し丹誠追月原し神威是より得くそやう  
迎に奉れ奉り此堂の旗をけりて言ふし記し  
ありしに伊能氏といひし身肉ありたり孝子  
亡是れ追福とて信田といひ奉附きしれきり

大宅三車なるは、其の事、前ふり、知り、し、  
いづれ、その、事、用、し、り、  
ま、  
二

荷らね、  
蝦夷下館 東水

蝦夷下館

ふがね、堂、れ、う、ろ、ろ、  
館、の、約、あり、往、青、蝦夷、人、け、  
事、り、何、ろ、れ、お、の、下、り、不、動、布、し、  
給、り、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、

館や守れば、  
東水

釜清水

む、く、大、衆、舎、席、の、初、月、ひ、  
二、月、の、舎、あり、ろ、ろ、  
あ、が、ろ、ろ、今、ろ、ろ、ろ、ろ、  
ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、

鶴里

底久武

正善院

黄、令、堂、の、別、當、り、是、も、  
い、ち、ろ、ろ、而、堂、と、い、  
梓、下、の、出、園、れ、  
偶、ろ、ろ、  
秀、ろ、ろ、  
乃、交、ろ、ろ、  
や、ろ、ろ、  
水、音、れ、ろ、ろ、  
社、ろ、ろ、

病牀吟

昼は短く小ばしとあつし 秋も

辞せ

水を月名に合ふとある所ある雲

下居宮 附國分

二王門より奥よりありわれをくく小なるに其の社記  
日毎歳九月晦日之山権現下山十月朔且神楽干出雲  
別大社同晦日歸座至十一月九日下居此宮云々の故  
今小玉門と云ふ中冬九月湯たはた成より一奉  
古此れ神院あり則天下國家山上山下此古禰と  
説示し居る者ハ山の執行職十月十一月月望坊よ

下りありれ神院事畢く山とせり思ふなり諸社の  
湯旅なりと云ふなり

ありわを居る所行やいけあり 羽黒 幸信

油とく神とありありはくはく 此紅

獨り桐やありありあり 李山

向木飾り床静かり 竹孫 呂茹

大黒堂

人堂五十一代平城帝の御宇大同三年より静徳は  
配流中々此國よりあり居るなり傳教大師は作  
の大黒堂を安置し居るなり大黒堂乃傳教大黒  
堂と云ふなり一衛よりあり居るなり

賢小肥く此より孫孝なるを李山

醍清水

大僧正行基の此山に入ると附近に悪病は皆  
りり小行尊を以て行の祖実成に拘りけし水ありて春  
馬先病入し病を治り念<sup>ニ</sup>りり切き名は行  
とあり

祖法より傳らるる世に源  
安心

行尊塚

乃より南の方より宴養山といふ山あり柳は此塚正  
の事三井圓満院に碩學ふして向河院は崇仰他  
り異よなるなりと靈驗高德奉とあり

の録見る中より三つに畧記する事如左

系圖

三條院 小一條院 源基平 後三位号 柳子宰相 行尊

又向河院之猶子より二歳より十ハッ 難髪して二井の

明行より入十七歳中にて峯入難行と勤むるあり

驗者此名を多く采久四年補園城長史保安四年任延

曆寺、座主長承三年勅為衆僧之上座居干二井平

等院とく御よりその終り終りし諸佛より三つを

徳園神機のほあれし中より錫杖掛好の雷岩は

修り成なるいほわたり此より自身持りりいきん

一に此古墳今小好なり寛永のは禁断し信りる衆徒

持經院心よりあるをばなえりくは隊れ中より一つの金  
 れありくゆき師大峯修行の時より終ひるまで  
 としりなましなり山福れ歌うれ金れりるるる  
 とらるるそんおのりれありく成りしと成りしなり  
 此境れも福何大明神と初まされは是は中より  
 なるるる成り止まり六百十年正往今所感涙袖と  
 わりすものなり

龍騰しきまのけりいさおらむ惟然  
 藤福れなましおりの福れ 実 風水  
 情なき流系なきや一雲の 子甲 峯月  
 松多れ雪や一科樹れゆりし 千露

けげきり籠り南ひく金鳳茶 今 了 枝  
 系はゆり吟しおさるる福れ 今 東洞  
 清れ候うくおせまやなむる角 藤 榊也  
 實方し福れも福れも 福れも 立宇  
 ありむる系流の橋し天燈中 呂茹

峯、薬師

あけ堂い常山入身修行れ何修験行烈繞堂乃乃  
 そくく拜くゆきまらるる  
 野し山をなまし流瑞れ世界し 風虎  
 ろけ出れ静るる海に乃處で風 浮生

荒町

岩城領主

此所びりくし子願屋一きなりそれ外福昌寺傳心  
寺なりしりふあり所内乃鎮守とて  
嶋石しりふあり所内乃鎮守とて

毎年常山禪定乃砌を修葺とて一寸四方とあり  
控餅は道とて高ふ事なりしりふあり山家の形  
容し似合なり旅客名物賞観せしなり

執行清水

海河と云ふなりありそれ流は深しと往來は乃舟

鳥崎

舊記云能除太子至羽峰時樹陰深鬱而殆迷岐路  
時有翅八尺靈鳥二足來導能除臻羽黑及月山等乃

太子歡然而歌曰山

彌也喜茂禮遠能我播俱魯能也磨加羅須軻珥良

迺志呂久那良年登滿天母也

蓋此山萬歳を祈ふに嘉瑞を如此れ禽於示れ

りしりふ鳥れ願とて向く事あり山は乃守と

の種孫をのりたしりふしりふ今亦云いて

山と山下愛ありん時多と是れ鳥又も向たりしりふの

知る事悔しりふありしりふ

曙右長とありしりふと其も之江戸神叔

是非とありしりふと園地のかりしりふ呂茹

うれありしりふとありしりふと崎柙也

橋小路

是より三尾池水を光明院と云青ハ二百頃を領し  
 寺あり此寺橋に入口と天拜殿と云此の寺に  
 龍除石と天童をあり路より下りてかゝる名あり  
 下りて

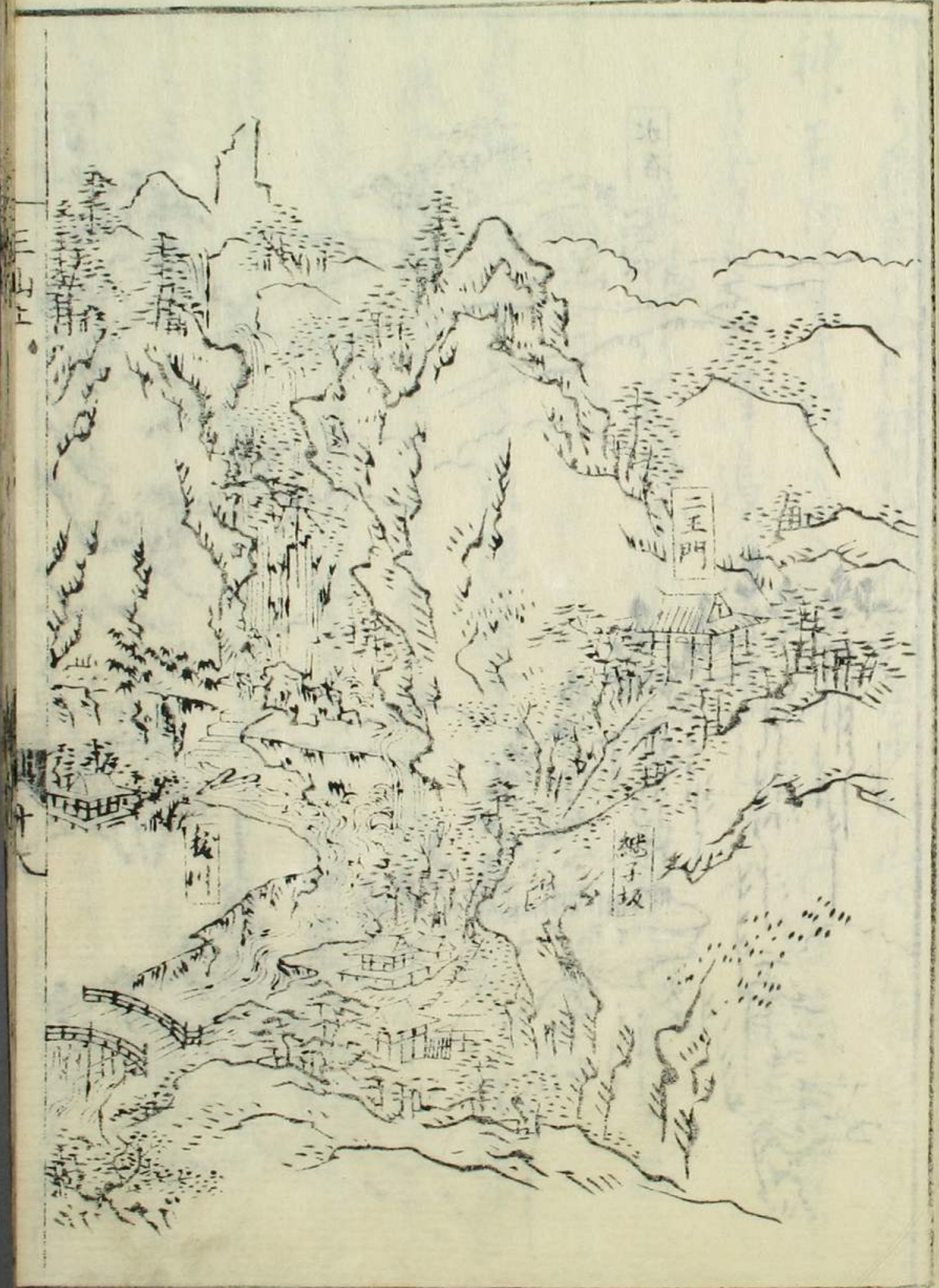
上重町

古墓町と云是より麓に北方へゆく路徑あり

下旬館

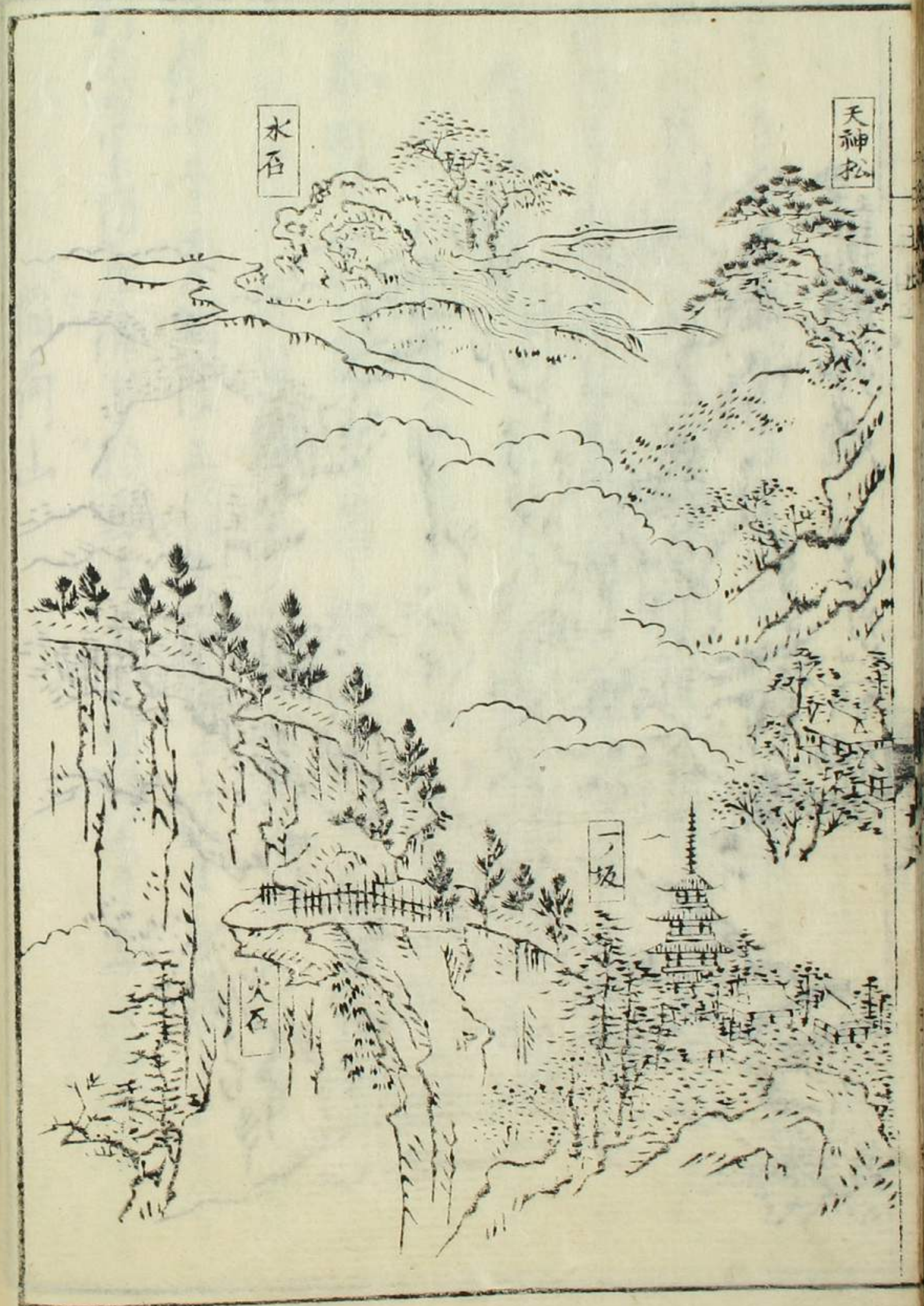
此下りて光明院主住りて少くは院を屋鋪と云今  
 別々の里坊屋鋪とあり上下旬の車かり小田つり

福荷山



三山

三山



古より福荷人の神と称し山内れ者出あり  
 必神若何の事時くやいありくもこの高嶽なる  
 りるしなりんこれ澤邊は思澤しり

水れ尾乃移ちわく事ありかきんる呂加

二王門

これ二王尊いさるは道道といつる禪家乃徒権取  
 丹誠乃志願ありくも一院を建一此下あり  
 居るといふこの佛像は建をせんと成れ一の二王尊  
 七造受より石れ隔り小舎ありさるは園東より  
 牛を奉納しくさるはけりく牛は湯殿持候の  
 仕者小して有り繪りてし納せりなりや



継子坂

じりりあふぬた女れ肉... 此の... 足ゆれありき... 縁より山を小... 識の身も肉... 悲しむれども... 一はるぶとく... 後世更忍昔

下海やもこれ... 目録乃花介我... 其翠

それ母... 李夕... 山風... 呂九... 李山... 呂茹

白山官

吸成... 今ハ官殿... 後川

若くふれ... 湯殿月山乃... 三十一

しりあひ進ませふ至のくも年々諸人身とれ出事  
又る國家れ禍多成さし荒和後終年のくもい  
名賢高緇いふの門よりみそをばをりきるふ衆  
もいひ門より名付より此よりりいひく控現瑞龍の  
内をねる往籍れ人々身心と法免登嶺とくさ少そ  
右れ方より瀧あり傾利伽羅不動乃鑄像水中小豆  
のふ流り流る飛泉ハ朱夏玄冬小く白布成りし  
あささ銀河の九天より流るる賦下りしむとく  
みるよりいふあり流る

被去九塵淨有川委波日影一繩金實傳  
金繩界道瑠璃地瀑布垂幡千方尋

次韻

人世塵垢茲被川心身瀟洒淨如金海秀

岩前仰視一條瀑彷彿飛龍下百尋

十首和彩月子納り  
おれおれし向ふを  
酒田 政盛

いひ門綴ね流る小くは月乃いふ相れ山も移りし

水をらりやわくし流るるわとれ素堂

粟多く不動れ怒も深し言水

壺はさうし流るれとやさうい川里風

敬垢れとらら人やりらむ川桃濟

草刈乃野麻母のくん後河風水

皆を門く新涼もく河花れと東水

身よ脈より其の門を漸く其の  
 惟の俗衣を脱ぎて白き衣を穿て  
 今 旭堂  
 今 梅露  
 今 孤鷗  
 幸信  
 南枝  
 其翠  
 李山  
 吳柳  
 幽窓  
 後川や道者も新修も清く地

作盤れり其の如く修く根芥といは呂茹  
 不面堂

此中既より其の身容乃其のまなり其のまなり其のまなり  
 僧侶時々此下より其のまなり其のまなり其のまなり

念佛堂

和光山月桂院や其のまなり其のまなり其のまなり其のまなり  
 退乃念佛のまなり其のまなり其のまなり其のまなり  
 其のまなり其のまなり其のまなり其のまなり其のまなり  
 其のまなり其のまなり其のまなり其のまなり其のまなり

道より其のまなり其のまなり其のまなり其のまなり  
 雁山

律院の昼より永く 海棠宮 東水

八大堂

八大龍王辰祠一字をりも愈々堂廡に復縁魚鱗  
水はれり辰辰形をりふれ堂のうらうら相を移  
るる幾年来と遷りし忘れが所移ありけ堂より  
してかれありや所く竜形に流る事ありと傳ふ  
そし此山の権現と龍形に神祕ありまはるや人の  
一説竹生に據り八大龍王の鎮復しかり事實は  
示しやありやと申くありかぬふかそんえ竹生

五重塔

本尊と正觀音菩薩臨關本軍茶利妙見の二尊也

永平年中平将門建立之と傳ふ朝敵孤逆の心  
くくか所法施とせしむるいふ思ひゆる武藏  
國神田社に社家た詠り大己貴命と崇りといふ  
林道春が神社考小ふれ将門の靈辰鎮をりや  
本より乃法の名記し極る事跡因縁あり人遊て  
可考

應永五年平朝敵河守藤原朝臣氏家再真之同六年  
癸丑二月八日佛供養時導師天台沙門觀學は尊藏  
と古記記録しと久しかり塔は四方小法報應化乃  
四字額あり小野道凡の字所より傳ふり

高顯幾層雲幾層 層天無翼一飛樓 實傳

三山  
脱、登仰見斗牛際、四萬由旬、倦望眸、

次韻

孤巍宝塔、王校層、遮斷、木清、隣、月樓、禪光

一、迎、愍、懃、三拜、立、堂中、聖顏、共、青眸、

今、一、重、宿、多、し、所、く、く、羽黒、東月

向、雲、く、九輪、の、せ、り、山、と、あり、旅人、三扇

學頭屋鋪

晴乃、き、小、あり、羽、是、代、れ、子、既、滅、け、あ、り、何、き、り、と、小  
り、き、る、義、師、し、是、驗、高、德、れ、僧、み、く、男、康、嶋、神、社、に、  
系、帶、き、り、六、月、十、五、日、羽、是、山、乃、祭、祀、事、畢、つ、く、又、男  
康、嶋、の、祭、祀、事、多、く、凡、そ、の、道、程、三、十、有、里、と、隔、き、り

同日、れ、内、に、行、た、り、飛、行、と、り、と、い、ふ、ゆ、り、と、め、お、天、下、大、早、  
年、為、慶、民、祈、雨、於、待、筆、池、邊、誦、法、華、經、兩、等、經、之、日、之  
内、洪、水、雷、地、輪、云、い、あ、の、外、奉、く、あ、り、く、道、智、尊、量  
等、の、位、位、げ、た、り、住、居、し、く、荒、所、空、勝、院、に、住、き、り

天神社

天、滿、宮、代、志、多、か、敷、鴻、れ、乃、成、り、つ、と、ま、れ、り、深、き、り、向  
い、れ、孝、小、天、神、社、に、つ、と、あ、の、外、大、日、堂、智、音、堂、普、賢、  
堂、等、寺、境、内、に、く、並、居、り

護摩堂普賢堂

右、の、所、に、く、く、二十、余、段、の、こ、も、間、を、り、事、定、ま、略、す、

一ノ坂

普賢堂の最上り八幡坂れりく石階六百七十間余  
前代別当天智江印寄置くふれ坂の右の方秘塞森  
しり谷あり

大石

一れ坂のなかりあり石より西南方小角の南野  
しり谷より石清ありとく水石あり是れや出羽れ二つ石  
とく下れ往今素詩り賦り歌り縁を伴ひ二つ石の  
まへに法陽二氣れ寄寓あり大石の湯徳成類  
森羅草木の茂るを均す成者といふと出羽の園冥の  
夜よりまの輝くをる痛もえん知る事時くや清海  
の私人げいひり成同路りある事しあるり水石

又雨を流れ潤澤成はるさとり石中より冷くさる霊泉  
と涌出りその流ととく数ふれ民草と所いりゆる  
早暑より絶を奇く妙く秘ありと時了りよの氷  
石れ流より下れ玉河くえの傍二氣乃其石深山雲谷  
と陽する事是又とれ名しるゆれ洞すの松くえ伝名  
や清池を隔する事ありゆきとありまわの山の  
その法徳陽報成ふれゆり石り影り行末徳成園  
家れちり山と山下乃人伝く退勅をくしん事と示  
し給ゆり往請れき妙等閑れ看成りとるまん  
いしんや山内り一病成下ゆえん位せりりや仰りしや  
鶴り岡れ莫士柳原氏水軒より石と云徳一と成

繼りて山々を巡る程より、社記石録等より得たり  
 甚深也奥秘や、まゝ不農史に之他、愈々其口を以て小  
 おたり心成るる物、白石の福と、石人中の雲、只

敷やりあやゆれ芥より、石成るる川、嵐雪

石れ其の彩や、鳥ら所名は、ト、喜運

中、水より、指は、乃、根や、ゆ、白石、倫水

縮書より、郊、社、れ、れ、や、や、ら、石、狐、瑞

乃、漏、を、漏、れ、縮、成、乃、り、や、る、石、乃、今、不、及

わ、く、を、り、小、山、と、握、れ、り、物、乃、石、李、山

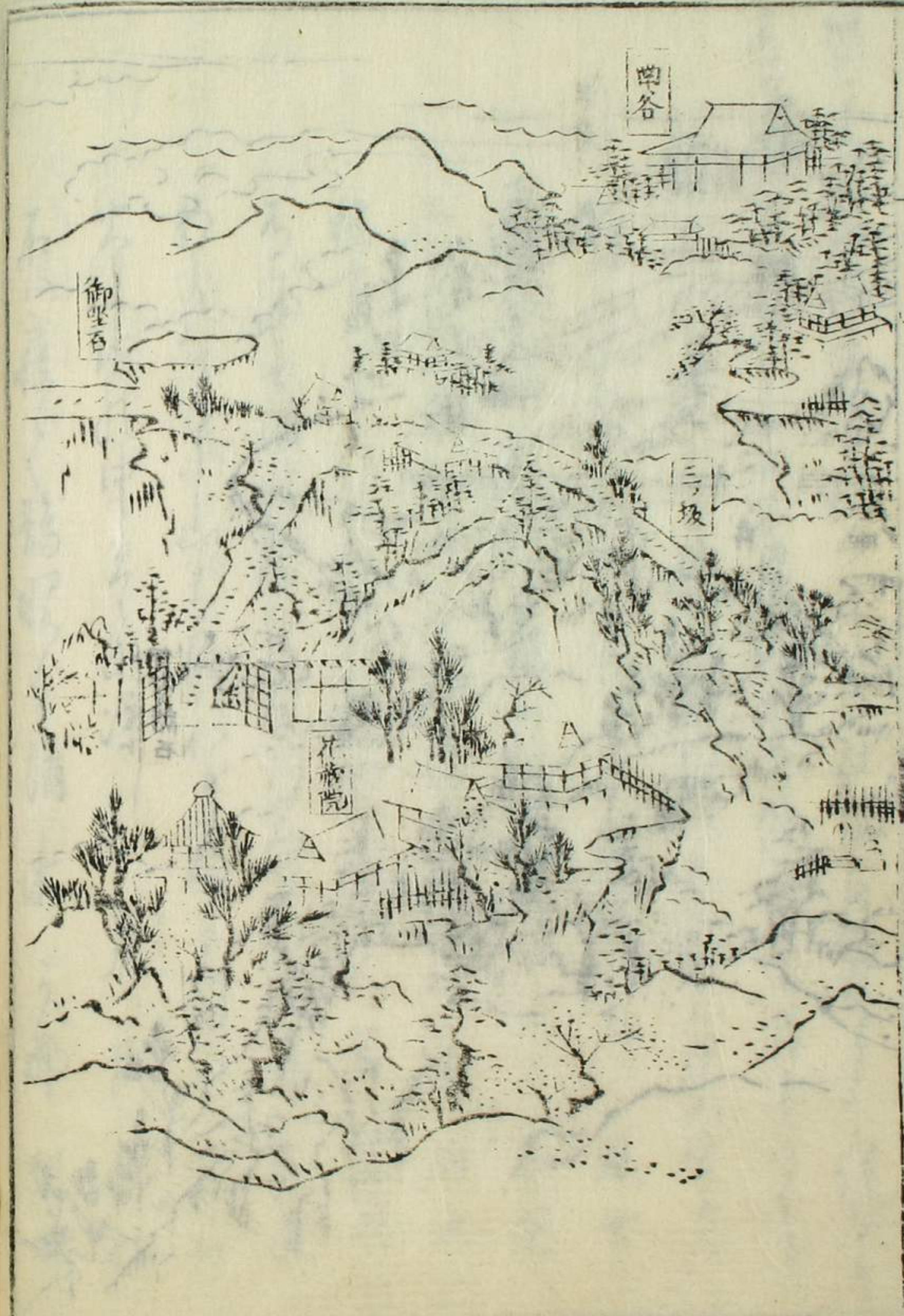
中、し、水、れ、中、を、小、深、り、美、武、此、紅

石、い、痛、く、鶴、眼、く、清、水、う、柳、梨、水



伊勢詣石

二ノ坂



石を山を此の山を石呂茹

二坂

これ頃の長油の月しといふ所のなるか所あり

長嶺移山

二つとある移の系えん移えん等しくもびとれは深淵  
 又相しれ移るごとくこれ移れれば又谷れ移りけとあり  
 とよとぞいふ所の所いふおの樹れ下りりいふの月をそ  
 女わんべれらといふ石の移り移るおと移る乃至童子戯  
 聚砂為佛塔可思可感

下は氷れ凍りてあり石河津は江銀葉

山風



地藏堂

別高へ着て道者ふのちやく經木等處建の  
山王宮

此文中ぶら廢壞なりなひいさるりさるり年東叡奉  
の顯王院主台宗擁護の神これ再受く應た  
ろく朱れ玉面ふくび輝くよやく台家傳燈の守  
とわくしんげん

伊弉諾山

若一玉守し早くと伊弉諾伊弉冉れ二神代崇ふくゆら  
まるとなるといふ物に石くく大なる叡ありはそれら  
より西れ方より高も生乃比ら山谷夜とほく秘と濃

香芬郁

梅く月花とつ物れ殿なりとぞ東水  
むうく小伊と物と石乃たそは羽黒覽水

若王寺

い守いせく一山貫主職と字ツロサトの依園殿在の末流は  
動と寺山此號とい伊弉諾山若王寺宝前院と号は  
當時東武輪王寺乃ら多れ沙支配ふて繁榮道日月門  
そり連池あり中より辨天宮ありそれ外靈佛秘寤來  
由の著イサノた高故多は秘くたわとく記しかしけちそ  
のつと山らりるらる天宿法京け下と後よりそしけ  
天宿師乃基と五十七世れ別當ふしそその智れ天月と



濃國谷酒中く方師より終入呂丸と亡人となりて其  
名のおより後ら幸に都の去く口海の一勝りし詩  
りり字をりし者略也

此寺住持の比 僧正胤海  
良かれ終り

いかに今宵は月小の夜思いで羽北奥の山寺

寺より秋徳<sup>オクラ</sup>のくもれはねりて湖春

燭の光のたをるとは海浮 持れ音 浮生

をそとくれやが中より 崖乃たにぞり <sup>鉄</sup> 白鉄

文豊次

ふれ遊若玉守りし水れ谷ありひくすのりとのわと高唯  
の上人高山水り登ら此亦ふしと敷日成送り雅況乃

天威冥正れ加給り 終りもりの齋記より 凡く持るは

遊童や陣乃とふれれ何 洛又 此紅

日守と孫より照りぬるが うれ 立宇

西行<sup>モリ</sup>庚

西行法師登山れ事古記より 又くは 眞淨もあゆり

餘波の孫よりありそのわしといふやうにまうりなる

御よりいふわをぬれ侍りていふやうにまうりなる

まわし中ぶらりて西行孫といふ一木れちるる

おれし是も市若れあおのりなりなるぞいふ

山崎<sup>横</sup>野原よりちやうどよんのを草 嵐雪

車むけよりちやうど角めりける 氷花



梨水  
 不及  
 呂茹  
 山風  
 其翠  
 庭水

野からし、給うく、駒れをぐくう物、立志  
 八幡宮ありあり、九月流瀉馬に神事、  
 略々、字、  
 立志

袖ひけく汗やぬれぬく、雲境、此紅

檀所院 善臺院 圓珠院 玄陽院 儀本院 福乘院  
 般若院 今改号三學院 地藏堂あり 右三十余院の内あり、事、略く  
 花藏院

羽堂中、大建連の一寺あり、是、寺の寺、皆ふれ、開  
 基、己、我、  
 中、奥、  
 此、院、の、規、模、  
 一、山、此、勸、  
 一、山、此、勸、

餘山石土形如馬字、是辯天社禮字也、御堂、権現本社  
のまじり、辯天堂のまじり、冷水涌出、此礼字、此も  
し、まじり、名奇異なり、わく、て穿井、その水、わく、清  
涼、く、く、如耳露、妙薬、是、豈、天女、之、感應、不、甚、深、乎、因  
名、福、寿、水、又、呼、耳、露、泉、此、礼、の、先、宗、島、海、成、向、小、一  
宿、上、川、深、く、く、涼、ゆ、ぬ、く、心、成、の、ま、長、ハ、湯、毎、月、出  
乾、く、飛、の、時、ま、く、あ、ら、う、の、ふ、る、西、あ、れ、村、里、え、い、し  
ま、ね、ま、み、り

美帆、行、帆、月、あ、る、人、れ、ま、さ、く、つ、の、無、倫  
浦、か、ら、い、ま、ま、け、船、く、も、も、れ、廉、東、水  
山、眉、成、礼、ま、す、た、い、し、う、ん、川、久、武

景、あ、ら、う、り、因、成、さ、ゆ、ん、に、ま、え、ん、の、水、軒  
酒、清、く、く、の、海、成、水、は、く、つ、那、紫、片

室徳院 南陽院 能林院  
右、三、千、金、の、あ、ら、う、れ、御、座、石

能除太子御座石

住、青、能、除、石、子、登、嶺、の、あ、ら、う、り、の、骨、成、息、い、は、し、  
河、御、座、を、掛、ら、れ、た、ま、ま、の、ま、ま、は、け、け、り、か、ん、舊、能、  
林、院、に、地、内、く、ら、ら、う、り、あ、ら、う、た、あ、防、瑞、何、く、此、不  
は、福、く、住、還、れ、貴、賤、辨、ま、す、ま、ま、小、ま、ま、の、あ、ま、り、感、應、云  
太子、昇、天、れ、た、り、く、ら、り、清、水、管、の、ま、ま、れ、石、ま、ま、止、ま、り  
ま、ま、り、ま、ま、り、ま、ま、り、ま、ま、り、ま、ま、り

三山  
蘇我子... 水軒  
... 且松  
... 立宇  
十五童坂  
終行屋浦... 修行

下北表  
辨天堂

是付古... 乃權護... 一の奇...

能除帝

太子... 舊記曰... 荒相放... 髮深衣... 遼濱往... 樹果平... 誦能所... 蘇我馬... 人王三... 之詔至...

身觀世音菩薩時護曰善哉聖者修勇猛行一身善業  
普利不他當感見彌陀大日所居土則化成靈鳥蜚揚月山  
及湯殿山且虛空語曰我是羽黑神社也永欲使汝興吾山  
即授三面宝火珠云云云云此宝火珠後以之自燒之時  
不動明王自臂放瑞光云云後之則清淨常大足之  
今此世小門と湯殿行者此常大足月山湯殿登  
嶺難可修常大堂の下と具て戴て月山湯殿登  
岩れと此奇瑞後下と修也と取略云云云山中と遠  
建てる此寺院若干所中と  
羽黒山寂光寺 堂路山瀧水寺 南滝山禪定寺  
來光山千勝寺 下居山中禪寺 醫王山機乘寺

不動山嘉祥寺 漆川山我寺 金色山福王寺  
荒澤山廣澤寺 以外敷多明と修と云とあるは  
略とすめれば一尺七寸乃新條は刻て安置  
今今と修と  
太子在世靈驗廣大妙中と云と大太子山崖安住の  
うと迎里投疾信也心純中今川縣主時長一て三年  
腰脚痛とり故と頼と太子れ高德得益信長と山  
崖より信と則太子のりんと目信縣主の屋宅より  
火虫とく悉焼とらと病者としむと云と云と云と云と  
由ぬとれか所は太子のりんと別との屋宇と云と  
痛むと云と病者とし頼と愈と腰脚おのりと聖康



なり是則能除一切若此經力殺多此智也成心之病  
患速瘡之燒止之術也千人同之謂之貴賤是成出下  
者一それ功いよくする

二件の事、舊記乃無意成多之独、筆子略識之  
太子之事、以通之世、初、手殊、の太子、子、殺、事、彼  
是、人、東、朝、の、信、之、當、山、五、十、世、此、別、多、天、宿、師、の、事  
等、覺、樹、院、有、海、之、水、之、衆、中、納、言、殿、の、神、息、か、れ、は、  
い、ち、子、れ、海、本、禁、中、記、録、不、中、く、存、子、の、お、ま、た、は、  
と、法、文、通、あり、く、幻、水、之、願、願、ふ、此、有、成、法、の、事、あり、  
な、れ、い、く、小、と、崇、峻、帝、れ、皇、子、の、所、に、法、返、書、下、り、  
なり、の、所、い、く、に、法、身、の、遠、降、ま、る、と、い、ふ、事、あり、偏、了

出家科、能、れ、わ、さ、し、と、い、ふ、或、議、曰、往、昔、奥、羽、俗、道、蝦、夷  
勇、押、羗、奴、抗、王、師、事、所、戴、史、傳、可、見、吾、能、除、獨、岡、山、岳、驅、  
猛、獸、而、後、蒼、生、得、安、遂、使、之、領、西、天、法、味、長、為、朝、廷、之、藩、  
屏、且、奥、羽、俗、識、大、推、現、為、地、能、法、信、之、三、州、共、浴、其、化、者、多、  
焉、奥、羽、諸、侯、東、征、都、督、皆、先、致、幣、帛、於、此、山、若、息、則、危、  
此、能、除、瘡、  
於、く、一、世、別、行、の、人、名、れ、也、と、云、ふ、所、有、  
金、剛、佛、子、阿、闍、梨、弘、俊、尊、法、坊、推、古、帝、の、勅、成、り、け、始、  
く、執、行、の、位、  
位、を、所、り、已、來、今、れ、世、乃、上、人、号、此、堂、  
あり、く、昔、に、名、れ、載、り、お、れ、政、實、な、り、と、い、ふ、の、熱、山、城、  
法、中、永、忠、守、れ、秘、書、あり、

末、再、記、也、法、ら、ち、留、れ、菊、の、山、東、水

花守や竹乃そのふれわつてわつて 呂笏  
らう記を上人号れ奉と覺樹法殿より水々源殿へ  
尋ふはらうふらう也此宿海法皇代奉に美應元年  
の比天宿師師弟の法賢御ありて同と奉年年の互羽  
山之居下ふふく奉中修行ありてくらの唐訳して  
者く奉より携ふせ給ふらう狂縁もあつて奉  
ゆく佛法僧といふ念の靈鳥鳴らふらう人此をけるい  
類いなり靈をもとふ高野乃通念集く奉修行あり  
か心奇事奉奉の序ありて奉ありて奉ありて奉あり  
これ法家山門修行後念くけいふ又ふらり師くらう  
と比天宿師と卯中這いふ奉奉やふらう人宣承回

奉中より二十六年歳より一に五萬里れ方となりて  
らうを奉よりわく奉より通世師くらうわらう法  
坊舎れ一同く一音法師くらう  
わらう奉のふらう奉よりわらう奉よりわらう

神輿堂

三山権現乃法興六れ堂あり毎歳六月十五日は法  
祭礼の時号る出と

大峰小燈石壇

天下國々五穀豊登を祀祠くく執行職先達職員を  
修行せら奉あり奉大祭灯乃奉奉の奉の奉小燈  
奉奉と奉中の行奉奉あり奉奉奉奉奉奉略く執

行職家文の附於開山堂と大塚あり

御影堂

當山別當執行四十八世宥源四九世宥俊二代の法親  
系の取と出羽守源義興乃法位牌あり元和奉  
中より宥俊遠建

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

